

令和5年度

第1回

庄内町総合教育会議

議事録

令和5年10月24日

庄内町教育委員会

令和5年度 第1回 庄内町総合教育会議 議事録

- 1 会議日程 令和5年10月24日（火）
 開会 午後1時30分
 閉会 午後3時00分
- 2 会議場所 庄内町役場 B棟 会議室1
- 3 内 容
 1 開 会
 2 あいさつ
 3 協 議
 (1) 教育行政にかかる課題について
 (2) その他
 4 閉会
- 4 出席者（構成員）
- | | |
|--|--|
| 庄内町長
教育長
教育委員会委員
教育委員会委員
教育委員会委員
教育委員会委員
(職員) 総務課長
(事務局) 教育課長
社会教育課長
教育課課長補佐兼教育施設係長
社会教育課長補佐
教育課指導主事
教育課指導主事
教育課主査兼学校教育係長
教育課主査兼学校給食共同調理場所長
社会教育課主査兼社会教育係長
社会教育課主査兼図書館長
教育課教育総務係長 | 富樫 透
佐藤 真哉
梅木 均 (教育長第一職務代理者)
太田ひろみ (教育長第二職務代理者)
齊藤 雅子
飯淵 義晃
佐藤 美枝
佐藤 秀樹
樋渡 真樹
菅原 光博
佐々木信一
齋藤 希望
富山 裕二
渡部 恵子
阿部 和恵
齋藤 克弥
佐藤 晃子
渡部 進也 |
|--|--|
- 5 欠席者（構成員） なし
- 6 傍聴人 なし

開 会	(午後1時30分)
教育課長	皆さんお疲れさまです。教育委員の皆様からはご出席いただき有難うございます。それでは、ただいまより令和5年度第1回庄内町総合教育会議を開会いたします。はじめに町長からあいさつをお願いします。
町長	皆さん、大変ご苦労さまです。めっきり冬らしくというか、月山も初冠雪があり、白鳥も飛来し、マラソン大会に来た皆さんから、たった二週間でこんなに変わるのかというようなメールが来てましたけれども、そういった意味では、来年度は近いというようなことも含めて、あるいは、現在進めている学校適正規模・適正配置を含めて、来年度予算に反映した総合教育会議の中です、皆さま方からいろいろな提案、テーマを出しておりますので、しっかりと現在のわが町の子どもたちの状況、子どもたちを取り巻く教育環境なども含めながら、限られた時間ではありますが、議論していただくとともに、しっかり来

	<p>年度予算に反映されるような会議にしていただければと思っておりますので、よろしく願いまして挨拶に代えさせていただきます。改めまして、大変、ご苦労さまです。</p>
教育課長	<p>ありがとうございました。それでは3協議に入りますが、議長は町長にお願いします。なお、本日の協議題につきましては、レジュメのとおり、教育行政にかかる課題ということで、二点であります。一点目は「小中学校の適正規模・適正配置について」ということで、梅木委員、太田委員より議題をいただいております。二点目は「気になる子や、不登校の児童生徒の対応」ということで、齊藤委員より議題をいただいております。以上、二点になります。今日の協議時間、1時間30分程度ということで、午後3時頃を目途としておりますので、よろしく願います。それでは、町長、よろしく願います。</p>
町長	<p>それでは、3協議に入らせていただきます。(1)教育行政にかかる課題についてということで、梅木委員、太田委員からそれぞれ小中学校の適正規模・適正配置にかかわる部分で、議題をいただいておりますので、それぞれ発言をいただきたいと思っております。</p>
教育課長	<p>事務局の方で、資料を説明させていただきます。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明する。)</p>
町長	<p>よろしいでしょうか。先に梅木委員の方から願います。</p>
梅木委員	<p>学校適正規模・適正配置審議会に出席し、まだ、答申を出すには材料が不足しているということで、改めて会を開いて進めるということになったわけですが、周りの様子を見てみますと、遊佐町は統合されました。飯豊町では今、説明会などを開いていて、旧藤島町では義務教育学校を見据えた動きがある中で、本町でも審議会が設立され、適正規模・適正配置について話し合わせ、実現可能な予測が7、8年後ということなんですが、少子化に向けて、その中で、また、子どもたちの数が減ってくるというような中で、議論されているわけです。地域意見交換会で出た意見で気にかかったことが、庄内町の教育とは何なのかということが、アンケートの中にそういう意見がありました。そこで、中学校が一つになるにしても、小学校が一つか二つになるにしても、オール庄内町としての教育ということが、町長さんの中でどのように位置づけられているのか。私の意見としては、「教育の町 庄内町」という形で、行政の中でいろいろな課題があるかもしれませんが、教育委員会の委員メンバーとしては、教育を第一に考えたまちづくり、子どもたちのための、それに町民を巻き込む、それで、地域意見交換会でもありましたように、地域住民の感情的なものもあるのではないかと話でした。それを払拭するためにも、オール庄内町としての教育、これを町長さんから打ち出してもらい。このような特色ある教育を通じて子どもたちを育てるんだというような、そのような考え方を町民に示すことによって、オール庄内に近づけるような感じを持ったので、今回、話し合いのテーマとして挙げたところです。</p>
町長	<p>オール庄内町ということで、町民の皆さんにも職員の皆さんにも話しております。併せてですけども、先般の佐藤幸徳中将の関係で、イギリスから97歳の元軍人の方がいらして、あるいは、新潟県から104歳の方がいらしたりして、ということですか、今日も少し話題になっていましたけども、NHKの支局長さんが見えられて、「清河八郎を大河に」ということでやっていますよね、みたいな話題でありますとか、あるいは、おいしいお米の亀の尾を生んだ、おいしいお米のルーツの町として、やはり、食にこだわった地域に、この庄内町</p>

に子どもたちから自信を持ってもらいたい。誇りを持ってもらいたい。そして、いろんなことにチャレンジできる教育環境であってほしいというようなことも含めて、庄内町の良さ、強み、あるいは、その月山の山頂である平成の名水百選、立谷沢川、そして、この美田があり、おいしいものにあふれている。そして、地域の中では、お父さん、お母さんがいて、おじいちゃん、おばあちゃん、そして、地域の皆さんと共に、地域があって、その中で素晴らしい教育を受けてですね、幼稚園に通ったり、小学校へ通ったり、そして、特色ある地域行事に参加してということがあるんだろうというふうに思っていますので、まずは、その地域の良さを十分堪能していただく、そして、子どもたちには、なかなか制限をかけてしまい、いろんなところでチャレンジしにくい時代になっているのかもしれませんが、自然に親しんでもらいながら、子どもたちには、いろんな可能性、クラブ活動にしてもそうですし、芸術活動、あるいは、図書館の整備もその一環だろうと思っていますので、窓口をいろんなところを広げていくということが、教育にとって非常に重要なんだろうと思っています。併せて、地域の中で友達ができたり、先輩、後輩がいたりして、その社会環境をしっかりとつくっていく中で、将来的な自分の指針でありますとか、自分としての自我に目覚めていただきながら、しっかりとした大人になっていただくということも大事なんだろうと思っています。総合的に見て、庄内町の子どもたちが、誇りと自信をもちながら、いずれは、庄内町をしょって立つ人間になっていただければありがたいというふうに思っていますので、その辺をより見える化してですね、町民の皆さんに伝わるということが一番大事なんだろうというふうに思っています。地域の良さを一つひとつ実感していただきながら、皆さんが気づかなかった部分、あるいは、こういうのもあるんじゃないかというような新しい祭にも、氣龍祭などには参加していただいているわけですし、先般は、ちょうど保育園留学があつてですね、東京から来たお子さんと地元のお子さんが、非常に仲良く、東京から来たお子さんからすれば、ビル街の中からこのような自然豊かな場所に来て、すばらしい体験をした。あるいは、一緒に遊んでいる中で、議員の中にも外国籍だった方もいらっしゃいますので、そういった意味では、今回、たまたま来られた方のお父さんが外国籍だったということも含めて、多様性にグローバルなところにも富んでいるということも含めて、お互いにとって、Win Win な環境だったのではないかなと思っていますし、キッチハイクの取り組みにても現在、6組くらいは、ほぼ決まっていると聞いていますので、年間12組の予定でしたので、そこまで広がって、2年目、3年目につながっていければと思っています。いろいろ、雑駁な言い方になりましたけれども、いずれにしても、子どもたちは、この地域で勉強してよかったね、自分のやりたいことにチャレンジできるんだよね、そして、この地域でもっと頑張つて、いずれは、この町をしょって立つ、昨年でしたか、小学校3年生ですか、役場訪問してきたのは、町長になりたい人と聞くと、数人が手を挙げるわけです。議員になりたい人、役場職員になりたい人、いろいろいらっしゃいましたけど、そういったことも含めながらですね、まずは、子どもたちがまっすぐ、順調に育っていただけるような仕掛けづくりが必要だと思っていますので、まずは、具体的な施策としては、いくつか、学校の給食費の無償化ですとか、施設の充実とか、中高一貫ということが可能なかどうかということも含めながらですね、調整していきたいと思っていますけれども、いずれにしても、少子化の流れというのは、10年20年のスパンの中で大きく変わるものではありません。残念ながら徐々に減少す

	<p>る傾向にはあるのかもしれませんが、交流人口の拡大であったり、あるいは、地域への思い、あるいは、地域の皆さんが、まさに、隣の子どもも地域の子どもはみんなの子どもというような視点の中で、一緒になって育てていただけるような環境づくりが大事だと思っていますので、より目が届くような関係づくり、そして、子どもは子どもの立場でしっかりと役割を果たしていただく。遊ぶこと、学校に行くことだけでなく、たぶん子どもの役割というものもあるんだろうと思っていますので、そんなこともしっかりやっていければと思っています。今日、たまたま、午前中、囲碁を通して、遊びの囲碁だったのですが、幼稚園と小学校をつなぐということ在全国展開しているグループがありまして、今の天皇陛下も静岡県でその視察をされたということで、是非、幼小の連携プログラムの架け橋プロジェクトの一環として、遊びを通して、子どもたちが人間関係を培ったり、あるいは、ゲームのルールを決定したりですとか、あるいは、グループでグループ行動の規範を勉強したりというのも一つのやり方として面白いのかというふうに見ましたので、いろんな仕掛けを常にやりながらですね、子どもたちにとっていいもの、庄内町モデルみたいなものをつくり上げていければいいと思っていますので、まずは、皆さん方の声を聞きながら、ご理解をいただき、庄内町の子どもたちへの教育の考え方として進めていきたいと思っています。雑駁な説明になりましたが、まずは、思いを共有していただければありがたいと思います。</p> <p>冒頭、梅木委員が言われた通り、他の自治体なんかを見てもですね、一校に、あるいは、7年くらい前になりますが、青森県のある村では、すでに中学校の部活が人数が少なすぎてですね、単独ではできないということで、部活は青森市内の中学校に行くという状況が他の県では出てきております。一つの自治体のみならずという状況が、いろんな大会とかでも出てくる可能性があるんだろうと思っていますし、中体連とか、あるいは、小学校の枠組みのみならずですね、いろんなクラブチーム化していくのか、わかりませんが、一つの自治体だけでは、逆にできないということも視野に入れられないといけないということもあるのかもしれませんが、そういった流れの中で、今、審議会の中で揉んでもらっているものに、こちらから云々というわけにはいきませんが、流れとしては、いろんな流れがあつてですね、そういう状況もあると視野に入れながら、総合的に考えていく必要はあると思っています。</p> <p>なかなか、答えは一つでなくて、教育のやり方はそれぞれあるんだろうと思っていますし、時代によって大きく変わる、特に今、DX、AI、チャットGPTなども含めて、子どもたちの環境は大きく変わっておりますし、あるいは、多動性のお子さんの数の多さも含めながら、それぞれの家庭環境の違う中で学校の先生方の対応というものも決して、これをやればいいのかということでは収まらないだろうと思っていますので、それぞれの委員の経験された中でですね、いろんな考え方についてご意見いただければと思いますが、まずは、総論的な話ばかりしても、なかなか難しいと思っていますので、この中での特徴ある教育づくりであったり、具体的に町の特色をどう出していけばいいのかという提案も含めてですね、皆さんの方から発言があればいただきたいと思っていますが、いかがでしょうか。</p> <p>梅木委員の方で、こうしたらという提案があれば、いかがでしょうか。</p>
梅木委員	<p>これから適正規模・適正配置に進めていくわけですが、それと一緒に教育づくりというものを話し合っていかなければいけないと思うんです。私、以前、学力の面のことを言ったんですけども、IT教育だとか、英語教育も入ってきま</p>

	<p>した。いろいろ全国一斉の学力検査が入ってきました。その中で庄内町に住む保護者の方々の要求度が高くなってきているのではないかという話をしました。その中で、今、町長さんがおっしゃっていることはわかります。地域の特色を活かした教育とか、それは、どこの地域でも町長さんはおっしゃっていることなんです。そこから一步進んで、適正配置なるまでの段階において、やはり、この町は学力の面で少し力を入れて、IT環境を整えようとか、英語にはもっと外国人教師を入れて時間数を増やしてだとか、そういう意味での特色づくりというものをお願いしたいなと思っているのです。今後、中規模から大規模の小学校になると思っているのですが、その中において、一つ庄内町は教育についてこういうことをやっているんだよという、これを議論していったらいいのではないかという考え方をしています。もちろん、ここには給食の無償化なども出していますけども、教育による地域づくり、町づくりということもあるわけです。義務教育に対する町の姿勢というものを教育第一で考えてもらいたい。IT教育が進んでいけば、それなりの環境を整えていかなければいけないし、英語教育に特色を持たせようとした場合には、講師とか人的配置だとかそういったものが必要となれば、第一優先的にそういった行政の部分でバックアップできるかということを考えています。</p>
町長	<p>ありがとうございました。他の皆さんはいかがですか。</p>
飯淵委員	<p>田舎だから、通にくいということもある。うちの近所でも家を建て替えようとしたら孫たちから鶴岡に引っ越そう。同じお金をかけるならといって引っ越していった家庭もありました。ここに来たいから、ここに戻ってきたいから、じゃあ子育てはどうしたらいいんだろうと考える親たちが、ここに居たい。子どもたちをここで育てたいと考えたときに、たぶん、自分たちの世代と、自分は他県民ですけども、自分の妻たちがいた世代と今の子たちの世代は当然違いますし、人数が全然違うと思うんですね。先ほど町長が言ったとおり、部活が出来ていない、息子の話になって申し訳ないのですが、ソフトテニス部へ入ったのですが、一年生で入ったわけですけども、他の部員が一人しかいなくて、ダブルスでしか試合に出れないわけですが、もう一人がやめてしまったので試合に出れないので、自分もやめるとなりました。こういうことでは、子どもたちが可哀想だなと思うので、特色ある教育ということで、他がやってるのと同じことでは、庄内町に戻ってきたいとは、なかなかならないと思うので、奇抜なことをしようというわけではないんですけども、子どもたちを安心して田舎にいても学力が上がるような、それがわかるような、たぶん、「都会から戻ってきたいけれど、都会と比べると」と考えて戻れない親世代もいると思うので、現に知り合いでは、山形市、鶴岡市に住んでいながら、その町以外の仕事場に行っているという人が多くいると聞いています。地方だから、地方のさらに地方だからと言わせないような特色あるというのであればそういった内容の、決して奇抜なことをしようというわけではないんですけども、日本中どこにいても、でも、ここだったらもっといいんじゃないか、自然もあって、勉強環境もいいというような、それが特色だと思うので、そういった環境づくり、ソフトなりハードなりということを進めていければ、自ずと人口も増えていくのではないかと思います。</p>
町長	<p>ありがとうございました。関連で他の委員の皆さんはいかがですか。</p>
太田委員	<p>同じことしか言えないんですけど、新しい学校を造っていくということは、これから造るわけですから、ハード面ではそれなりの学校はできると思うんで</p>

	<p>すけど、要するに、庄内町は子育てに力を入れているよというのは、ソフト面でうんと打ち出していかないと、他市町村との違いが打ち出せないかなと私も考えていました。庄内町は町立の幼稚園もあり、そこから隣の小学校へ行きという、そして、職員の面でも支援員がたくさんいるような、とてもいいことをたくさんやってきたわけですけど、アンケートの中に、本当だったらもっと英語教育に力を入れたり、楽器だったり、その他運動だったり、力を入れている幼稚園に通わせたいけど、町立幼稚園があるのでそこに入れましたというような、今まですごくプラスだったことをそう捉えない保護者も出てきているんだなということを感じたところです。今まで、一歩も二歩も先に出ていたことが、他市町村とそんなに差はなくなってきているのかなと思いました。庄内町だからできる特色を打ち出していかなければいけないんだろうなと思います。それは、適正規模・適正配置で新しい学校が建つまで待つのではなくて、今すぐにでも、やれることなのではないかなという気持ちでいるところです。</p>
町長	齊藤委員、何かありませんか。
齊藤委員	<p>どうしても特色あるというふうに考えていると、私たちが考えるより、若い人たち、20代、30代の人で、例えば、ちょっと離れた地域で活躍してきた方が、こちらに、助言なり、何なり、「こういうふうにしていくといいと思うよ」と、庄内町のこともわかっていて、なおかつ、他地区の魅力あるところもわかってというような違う視点をいっぱい取り入れた方が、私たちが思いもつかないようなアイデアが出てくるかもしれないので、町の中でも、もちろん考えていくこと、他の会社でもいいし、若い人たちでもいいし、他の視点を取り入れていくことが大切なのかなと思いました。</p>
町長	ありがとうございました。
飯淵委員	<p>今の環境の子どもたちだと、特に立川地域になりますが、中学校、小学校、幼稚園、保育園、全部かたまっていて、他の地域もそうですけども、それが、すごくいいなと思うのが、子どもたちが「お兄ちゃん、今日、中学校で何とかしたでしょう」とか、それが見えるくらい近いところにあることが楽しいんだろうなと思いますし、先日、幼稚園に健診で行ったとき、子どもたちがグラウンドが見えるように立っているんですけど、「何とか君のお兄ちゃん、こっちに手を振ってる」とか、そういうのってすごくいいなと思いました。私は室蘭市なんですけど、そういうのはなかったので、幼小中の連携はずばらしいなと思うので、それは、もっとアピールするべきだと思います。ただ、これから、適正規模・適正配置でそれが崩れていくことになってしまうことも考えられますが、そこを何とかしないとイケないなと思います。</p>
町長	教育長、今までの話の流れの中でいかがですか。
教育長	<p>いろいろご意見いただきましてありがとうございます。よく言われることは、「教育とは不易と流行がある」ということで、最初に町長が言ったとおり、変わらないものというのが、やはり、家庭があって、地域があって、そして、学校、教育してということはあるんですけども、これから新たな学校の体制をさらに作り出していくには、当然、そこに行政も入って協力して、地域力で育てていくということが根幹、外せないものだとは思います。今年の氣龍祭でお願いしたことは、子どもたちが次の年も参加したくなる氣龍祭をということで、立川中と余目中の生徒からいっぱい出てもらうということを最初の原案とは違う形で進めてもらいました。それを見ていた小学生が「自分たちも出たい」というふうなことを言っているのを聞きました。あとは、高校もあるので、庄</p>

	<p>内総合高校との交流とか、今、この地域にあるものとの連携をして育てるとい うのも必要だろうなと思います。もう一つは、流行という面です。今出たよう に、IT教育とか、グローバル教育とか、先日、企画情報課から予算要望前 ですけども、ロボットのプログラミングというような話もあって、「そういう講 習会みたいなものを子どもたちにやらせたいね」というようなこともありま した。それに飛びつく子はいらるだろうな、または、自分自身が英語なので、や っぱり、英語のスキルがあると、いろんな人と会話が出来て、これから社会人 になって、中高生はもちろんですけども、海外に行く機会がどんどん増えてい くと思います。そういうところも一つあるのかなと思います。あと、庄内町の 場合は、教育委員会もそうですけども、幼小中、保育園も含めて機動性のある 体制をつくれるところです。何か困ったとき、教育委員会に連絡をもらう。そ して、学校と連携をとる。何かこれをしようと言え、それがみんなのできる、 そういう教育体制の機動性、また、連携した教育ということのできるのかなと 思います。ただ、現実には、先ほど多動性の子という言葉もありましたが、やは り、不登校もいますし、一人ひとりに寄り添った教育というのを庄内町の子ど もにとっては、非常に大きな学校現場にいた頃を思い返すとですね、その子ど もたちとみんなと共生して、協力してやるというようなものを一緒に学ばせ たいというような思いもありました。そういったことも併せて、一つひとつ環 境をつくっていかねばならないかなと思います。現に今、5つの小学校と 2つの中学校がありますけども、それぞれ地域性が異なるので、今まで伝統を 引き継いできたものとか、新たに始めたものとか、それぞれ若干ずつ違いがあ ります。そういったところも今後の学校体制がどうなるかわかりませんが、 そういった部分も残しつつ、子どもたちには体験させてあげたいなと思 います。</p>
町長	<p>ありがとうございます。今の話をまとめるということは難しいですけども、不 易流行の話がありましたが、何をこれから、選択と集中みたいな話も行政施策 の中ではよく言われる話ですけども、何に特化して、奇抜なものではなくとい うご意見もありましたけども、特色として子どもたちにどういう体験であつ たり、あるいは、どういう施策がいいのかということについては、しっかり検 討していただきながら、たまたま、企業誘致、起業という流れのプロジェクト では、ちょうど20代から40代の頑張っている向こうから来た人、あるいは、 Iターン、Uターンも含めてですね、成功している方も何人かはいてですね、 8人くらいで今年1年かけていろいろなワークショップをしてですね、庄内町 にこんなやり方でやったらいいんじゃないのというところでやっていただい ておりますので、そういった新たな視点での充て職ではなくて、自由な発想の 中で庄内町の教育施策について、自由な提案をいただくという場もある意味 では必要なかなと思いますし、こんな町になったらいいよねというような 話も含めて、来月でしたか、「学校に行こうプロジェクト」ということで、小 学校と中学校に私も行かせていただいて、子どもたちの提案もしっかり聞い てきたうえでですね、100年時代の中でまさにその小学生、中学生のお子さん の意見から、先輩の皆さんの意見も含めて、100年の財形づくりは教育にある んだぞとっておりますので、変わってはいけないものとこれからしっかり 特色を出していくものを精査しながら今後ともやっていきたいと思ってい ます。一定の時期、ある程度急いで整理しないといけない部分だと思ってい ますので、皆さまからも折に触れてですね、「これをした方がいい、あれをした方 がいい」とご意見をいただければと思っておりますが、まずは、今日の時点で</p>

	<p>は、何に特化というところまででなくてですね、皆さんからご意見いただいたことを参考にさせていただきながら進めていきたいと思います。他にございますか。</p>
飯淵委員	<p>特色は奇抜なものではないということをお話ししましたが、町長が学校に行くということですが、それを企画情報課と合わせて、例えば、撮影しながら、編集してユーチューブに上げるだとか、リアルなところ、例えば、庄内日報さんとかが来てくれると思うんですけど、だけじゃなくて、そういうのは断片的なところしか見えない、例えば、テレビ局だと5分くらいの取材でも1分くらいのニュースにしかならないので、そういうところを町長が子どもたちの意見を聞くというふうにして、町長の政策に活かしているというような流れでもっていくと、他にアピールになるし、他の学区の子にもアピールになるんじゃないでしょうか。</p>
町長	<p>ありがとうございます。企画情報課は今日出席でないですね。</p>
総務課長	<p>企画情報課は、そういった趣旨で今年度の予算の中にその計画を組み込んだものと思われま。情報発信していこうという、まさにその考え方だと思います。</p>
教育長	<p>そのことについては、私も大賛成で、私が余目中学校にいたときは、コロナの真っ最中でそういうことができなかつたんですよ。町長さんと話をして、そういったことを情報発信しながら、それが少しずつ形になっていくというようなことも子どもたちの次へのステップというか、意力というかそういったものにつながると思っています。今までだと、総合教育で勉強したものが、ただ発表してそこで終わっていたので、学校からでることはなかったのですが、それを何とか外に出して、そして、町の方からも応援してもらえればなあというような強い思いを持っておりましたので、是非、一つの突破口になるかなと思っています。</p>
総務課長	<p>以前は、給食を一緒に食べたりとかしていましたけども。町長も、教育長も、教育委員の皆さんも、それぞれの学校に配置されて給食を一緒に食べようとか、そのようなこともあって、その中で子どもたちとの会話がはずんだりとか、そういう機会があったのですが、やはり、コロナによってなくなって、それを復活させていくという意味では、子どもたちとのかかわりが今後増えていくのかなと思っていますので、その辺は今後の計画の方によろしく願っています。</p>
飯淵委員	<p>計画訪問などで、今も給食は食べますが、コロナのせいで、別の部屋で食べたりとか子どもたちと一緒に食べるということはなかったですね。</p>
町長	<p>この間もモンテディオの訪問などあったようですが、二小でしたか。くら寿司が来たというのも二小でしたか。前は、三小でラオスに絵本を送る運動とか含めて、協力隊にいた隊員が海外の話をしたり、識字教育の話をしたり、絵本を送るためにラオス語の切り貼りをしたりというようなことも毎年のようにやってきましたけども、それぞれ特徴をもっていろいろな体験をしてもらうというのは非常に重要なことだと思っています。</p> <p>では、今日の意見をまとめながら次に進めさせていただきたいと思いますが、太田委員の方から二点ほど出ておりますけども、まずは、スクールバスと小中学校の特色づくりの関連ということでありましたので、よろしく願います。</p>
太田委員	<p>適正規模・適正配置の話し合いの中で、スクールバスについて、学校と子ども</p>

	<p>たちの通学距離がどうしても長くなってしまいうところがあって、スクールバスの運行が今よりも必要になってくると思われます。それと、今年の夏のような尋常じゃない暑さということで、教育委員会でも暑さ指数が高いと臨時にスクールバスを出して対応したわけですけども、ピストンで対応していたということもあり、今後スクールバスの利用頻度は多くなるんだらうなと思ひました。ひょっとしたらバスが足りなくなつた場合などお願ひすることもあるのかなと思ひていたところだす。次の町づくりと小中学校の場所、小中学校の特色づくりの関連などについては、先ほど学校の特色づくりということで、いろいろ話ありましたが、学校がコミュニティースクールになつたことで、地域と学校との距離が縮まりつつあると思ひます。学校に外部の方が入つてきて、これまでもそれは多少なりともあつたんですけども、そういうことを非常にしやすい環境に学校そのものがコミュニティースクールになつたことで、そのようになってきたかなという感じがします。地域で学校を盛り上げていこうというか、応援していこうという立場もそうなんですけど、コミュニティースクールになることによって、応援だけでなく地域の人も学校とかかわりをもてるようになってうれしい、楽しいということで、学校もWinで、地域の方もWinで、というような関係づくりもひょっとしたら特色の一つになるのではないかなと思つたところだす。小中学校の場所ということで、今後の話し合いにかかわるところだと思ひんですけど、それって町づくりにとても大事になってくるのかなと思ひました。学校があるところに人が集まるということもあるでしょうし、庄内町に産業がどんどん興つてくれば、そこに人が集まるのは当然だすので、そんなふうな10年後、20年後、30年後を見据えて、いい結果になればいいなと思ひていたところだす。</p>
町長	<p>ありがとうございます。それでは、一点ずついきましょうか。スクールバスの関係で他の委員の皆さんはいかがでしょう。今年には特に夏場ということで、熱中症対策のことでありますとか、あるいは、議会の参考人で改めて要望をいただいているエリアもあります。子どもたちが減少する中で、集落によっては、ほとんど小学生がいなくなつたとか、あるいは、登校班が編成できないという事情もあるようだすので、もし、スクールバスの関係で他にご意見があれば、もっとこういうやり方があるんじゃないかと、あるいは、仮に適正配置になつた場合に遠いところが増えるわけだすから、始業時間を遅らせたらかつというふうな考え方もあるようだすが。</p> <p>鉢子集落に行つたときに、あそこは小さい集落なわけだすけども児童生徒がいるんですよ。「仮に小学校が遠くなるようであれば、1回道の駅などでトイレ休憩してもらわないとだめだよね」というような話だすとか、いろいろ話はあるようだすが。</p>
飯淵委員	<p>瀬場からという結構、時間かかりますよね。立川小学校でも。その辺を考慮してもらいたいということと、室蘭市も港からぐるっと端っこを回つて先端の方の学校に通つたんですけども、冬は雪で渋滞するんですよ。なので、バス時間はいっしょなんですけども、始業時間は少し遅れて、授業時間が全部5分短縮授業で冬場はやっていましたので、帰り時間はそんなに変わりませんでした。こちらは、向こうより雪がすごいので、特に立谷沢方面とか、47号線沿いとか、仮に小学校、中学校がそれぞれ一校となつた場合は、特に廻館のあたりは地吹雪ゾーンがあるので、子どもたちだけでなく、他の通勤の人たちも大変だと思ひます。その辺も、一年の中の数日だと思ひんですけど、その数日でも、子どもたちが苦勞しないように考えてもらえればいいのかと思ひ</p>

	<p>います。高校の時、冬場は1時間ちょっとバスに乗ったんですけど、そうすると、コートを着て着ぶくれして、ぎゅうぎゅう詰めでみんなすし詰め状態で熱くなって、気持ち悪くなって、吐いた子もいました。そういうことも考慮して、特に小学生などは我慢できないので、ぎりぎりまで我慢して、「トイレ」という子も多いようですので、その辺も考慮してもらった配置、新しくなった時だけでなく、今も考えてもらえればと思います。太田委員が言ったように、昔とは違って、ひどい暑さが続いたと思えば、ひどい寒さとか、急な温度変化などで、子どもたちも体が大変だと思しますので、大人も大変なので、子どもも大変だと思えます。雪だって、去年はなかったからといえ、今年はどうなるかわからないので、例年通りという考え方はやめていただいて、その辺を考慮していただければいいかなと思います。</p>
町長	<p>他の委員の皆さんで、何かスクールバス関連でいかがですか。教育長いかがですか。</p>
教育長	<p>アンケートなど、いろいろな保護者の声をみると、安全性もそうだし、天候が悪くなっているということもそうだし、スクールバスを望む方が多くなっていると実感しております。小中学校の場所はどうかということでの通学時間とか距離もありますけど、それに対して、今ご意見をいただいたようなトイレの配慮だったりとか、あとは、ルートに関しての配慮とか、始業時間の話もありましたが、そこは変えざるを得ないと思います。他市町村と違って、真ん中に集まろうというよりは、細長いですので相当距離がかかるわけですが、その辺も考えながら、スクールバス運行に関しては考えていかなければいけないと思います。</p>
町長	<p>来年度へ向けて、いろいろ内部検討もされるようですので、また、当然将来的には、どのような形でバスが必要なのかについても、子どもたちの人数なりスクールバスの運行エリアも含めて再検討も必要なんだと思っていますので、次の部分と関連がありますが、町づくりと小中学校の場所、小中学校の特色づくりということで、特色づくりについては先ほどの部分からもつながってくるわけですが、この関係で、場所については、現在審議会をやっていて、いろいろ意見があるというふうに伺っていますが、それぞれの立場の中で、全員にいいという答えはなかなかないわけですが、将来的に考えて皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思いますので、いかがでしょうか。昨日の審議会の中で、今回の件に絡むような話はあったのでしょうか。</p>
教育課長	<p>先週の金曜日に審議会がありまして、四小と立川地域について、審議会の委員の皆さんが決めてに欠けるといいますか、四小学区の保護者の意見と立川地域の保護者の意見が分かれていたので、審議会としてもなかなか答えが出しづらいというような形で、もっと保護者の意見を聞くための資料がないと判断できないということで、もう一度詳しい資料、アンケートをもとに考えてみようということで前回は終わったところです。なかなか、発言が出てこなかったというのが前回の審議会の内容でした。</p>
町長	<p>アンケートはどういう形でとるんですか。</p>
教育課長	<p>前回のアンケートでは、中学校は将来的に一校になるという前提を出していなかったのですが、四小の方は、立川と一緒にしても最終的には余中と立川中が分かれて余中に通うことになるのであれば小学校で一緒になることは無駄だというような意見もありましたので、中学校の統合の方向性を示していなかったもので、その辺の条件を示す。そのうえで、どのパターンを選びますか。そし</p>

	<p>て、そのパターンを選んだ理由は、どういう理由で選んだんですかという、その辺まで聞いてみようかなとは思っています。今日これから内部会議をして、さらに、どのような形でアンケートをとるべきか相談する予定ですけども、どうせ、アンケートを実施するのであれば、決め手となる答えを引き出せるようなアンケートをとれないのかなと思っています。なかなか、どういう設問を設ければいいか難しいというのが本音なところですよ。</p>
町長	<p>対象は前回と同じ方に再度お願いするような形ですか。</p>
教育課長	<p>いいえ、前はアンケートの回収のしやすさを考えまして、町全体の保育園、幼稚園、認定こども園、小学校の保護者の保護者を対象に施設を通して通知を配布しました。半分以上の方から回答をいただいたんですけども、それ以外の方、まだ、子どもを施設に預けていない方にも意見をきくべきだということで、その部分は対象を広げる予定です。また、一小学区、二小学区、三小学区の保護者については、聞いても変わらないだろうということで、そこは対象から外してもいいだろうということで、四小学区と立川地域に絞って、もう少し詳しい条件を示して、そのうえでアンケートに回答してもらおうというやり方ではどうかということ考えているところです。</p>
飯淵委員	<p>この間の審議会ですけれども、どうして、余目の方と立川の方が仲が悪いとは言いませんが、張り合っているというか、元他県民なので、その辺の事情はよく分かりませんが。</p>
太田委員	<p>思うのは、私たち世代で、今の子どもたちは庄内町のわたしたちという考えなので、子どもたちは案外フランクに考えているんじゃないかなと思います。それから、意見交換会の中で、立川の会場の時に、以前、立川小学校に統合するときに、狩川、清川、立谷沢にあったわけですけど、清川の人たちは、立谷沢の方には、行かない。狩川にだったら行くというようなことがあったという発言がありました。少しでも町場に近いところに行きたいというようなことなのかなと感じました。やはり、第四学区の人たちにとっては、私たちは余目町というようなことが頭にあるんだと思います。なので、余目の中心から外れた立川の方に来るのは抵抗があるのかなと考えたところです。</p>
梅木委員	<p>意見交換会の中で、「地域の方の感情というのがあるんでないですか」というような発言があったんですけども、そんなのがあるのかとびっくりしました。20何年住んでもですけども、そういうようなことは感じたことがなかったので、もしあるとすれば、先ほど私が話したオール庄内町という形をつくらないといけないのではないかなと思いました。情報発信もそうですし、そのためには、適正規模・適正配置を機会に町長さんから精神的な楔を打っていただけないかと思って、そういうのを作り上げていかないと、なかなかオール庄内町にはならない感じはします。子どもたちは、そんな感情はないと思うんですけど。</p>
齊藤委員	<p>先ほどのアンケートの件になるんですけど、一小学区、二小学区、三小学区はアンケートの対象にしないでという話でしたけど、やはり、オール庄内でいくなれば、一、二、三小学区も含めて全部の学区を対象にして、それも自分たちの子どもたちのためなんだよという意識を持ってもらって考えてもらうためにも、立川地域と四小学区だけでなく、一、二、三小学区の保護者からも意見をいただいた方がいいのではないかなと思いました。例えば、中学校が余目中学校にくるのであれば、小学校は最初から一つにして、立川にもっていく</p>

	<p>案でもいいのではないかと考えています。立川の意見交換会で、一小学区の人たちがそれで、納得するのかという発言があって、そういう意見もあるのかとお互いを気遣っているような感じがあって、真ん中にもってくるというのが、一番いいんでしょうけど、中学校は余目地区、小学校は今ある立川の学園としのようなどころにもっていてもいいような意見が出てもおかしくないのに、なかなか出ないなと思って聞いていたのですが、もう少し柔軟に考えてもいいのかなと思いました。</p>
太田委員	<p>一、二、三小をまとめて一校ですよ。そして、立小と四小をまとめて一校になったとしたら、20年後、30年後には一校にまとまるとすれば、そのとき、また、新しい小学校を建てるとは考えられなくて、そのくらいの気持ちがあるのであれば、何でもできると思うんですけど、そうでなければ、一、二、三小の学校に立川小と四小の子どもたちが入るとい形になるのではないかと思います。そうした場合には、中学校は45分の通学時間でいいけれども、小学校はもっと近く、もっと短い通学時間で考えると、小学校は、一小、二小、三小が通いやすいところではなくて、もう少し立川寄りのところに建てるべきだと思います。そうすると、将来的には、そこが庄内町の小学校になるのかなと思うのが一つと、四小学区の人たちが中学校に行ったときに、四小学区の子どもたちだけが仲間はずれになるのが怖いというようなことが、アンケートの意見にあったんですけど、一、二、三小が一つになって、立小と四小が一つになったと仮定して、中学校が統合する前は、どこの中学校に行くことになるんでしょうか。そこがイメージが湧かない。</p>
梅木委員	<p>個人的な考え方を申し上げますけども、中学校はスピード感をもって、2年後、3年後でもいいので、即一つにつべきです。子どもたちが少ない中で、部活動もできない。いろいろな少ない人数での競争意識だとか、そういった教育的には、非常に不平等な状況に立たされているのが立川中学校じゃないかなと、ある一面ではですね。もちろん少人数のいいところもありますけど。中学校は、スピード感をもって一緒になる。校舎は余目中学校を使えるということもありましたので、そういう意見も意見交換会の中で出ておりました。私も大賛成です。小学校の場合は、審議会での考え方が出てないんですけども、審議会の意見の中でも義務教育学校について出てましたけども、小学校は将来的に一つになることを見越して、一つ建てる。その隣に中学校を建てれば、そのまま校舎を使えて、義務教育学校ができるというような。やっぱり、これから、どんどん子どもたちが少なくなっていくときに、将来的に見据えてそういう考え方をしていかないと、無駄という言葉も出てきました。意見交換会の中で、中学校はとにかく近いうちに、スピーディに一つにすべきだと思います。あと、通学にかかる時間とか、そういったものは、教育行政最優先で知恵を出し合って考えるべきだと思います。</p>
飯淵委員	<p>私もまずは中学校だと思います。子どもたちの部活動のことがメインだと思うので、庄内町は端から端まで44kmというふう以前聞いたんですけど、真ん中くらいでという立川あたりかと思うんですけど、通いやすさ、時間的には清川寄りになるのかなと思うんですけど、まずは、中学校を一校にして、小学校をその後に整備していくほうがいいと思います。その後のステップを考えると、高校、大学、専門学校、社会人と人が多くなるところで、小学校は単学級でも中学校からは複数学級になるようにしてあげた方が子どもたちにとってはいいと思います。</p>

町長	<p>私は、郵便番号が999-66でしたから立川地区の方が近くて、子どもの頃の花見といったら楯山公園だったんですよね。そういった意味では、四学区の一部は合併前も桑田、千本杉は旧十六合地区だったわけですから、そういった意味では、隣接した部分でお互いという思いはあったのかなと思いますけども、まずは、中学校をスピーディにという話、あるいは、立川地域においては、小学校をもっていてもいいのではという、中学校が空けば、あのエリアがもたないというようなことを聞いたこともあります。そういった意味では、いろんな考え方があるんだろうと思っていますが、まずは、しっかり適正規模・適正配置の状況を見ながらですね、内部的に意見交換をさせていただければと思います。</p> <p>齊藤委員の方から、気になる子や不登校の児童生徒への対応ということでの課題のテーマがありましたので、まずは、中身について説明をお願いします。</p>
齊藤委員	<p>先ほど、多動の児童ということでの話もありましたが、気になる子が増えてきていると思います。ほんとに気になる子もいますし、ちょっと気になるなという子どもたちが、クラスの中で何%かは占めてきている状況のようなので、新しい学校ができるということもあって、診断がついている障害の子どもたちは、幼稚園だと酒田に行ったり、そこから言葉の療育だとか、治療教育ということらしいのですが、鶴岡の療育センターに通うようになるのです。そうすると、どうしても親御さんが仕事をもってるととても大変だということを知っています。私自身も大変で、仕事を休んで通っていました。幼稚園、小学校に入って、言葉の教室というのも庄内町ではなくて、三川町の横山小学校に通っていました。それも、小学校に寄って連れていき、横山小学校で待つということを繰り返して、なんで庄内町でできないのかなと思っていました。教育に力を入れているいる、一人ひとりの力を伸ばしていくという意味でも、診断がついて療育につながっている子、診断がつかなくて、でも、ちょっと気になる子、先生方が対応が大変な子に対して何か庄内町の中で相談が出来て、支援を受けられる施設を是非、設置していただけないかなと思います。</p>
町長	資料について、説明をお願いします。
指導主事	(資料に沿って説明する。)
町長	三川町になったという理由については、真ん中ということですか。
指導主事	以前よりだったので、経過まではわかりません。
町長	庄内町にもってくるのは、現状では厳しいわけですか。
指導主事	基本的には、13人以上ということがあるみたいで、今は4人なので、なかなか難しいかなと思います。
町長	メグシィさんが庄内町地内でも施設をという話をちらっと聞いたのですが、具体的にどうなって、その言葉の教室のような対応ができるのかどうか。
教育課長	メグシィさんが民間だということで、そのようなサービスも一部では行うかもしれないということで、それ専門でやっている施設ではないということで、放課後の預かりがメインなわけで、その中の一部として、そういったことを今はやっていないけれども、やることは可能だということですので、サービスとしてどこまでやっていただけるのかは、まだ、わかりません。
町長	メグシィさんは、令和6年度から稼働だという話もあったやに聞いていますが、具体的な動きはあるのですか。
教育課長	まだ、わかりません。県立のようなレベルのものができるかどうかは疑問があります。

齊藤委員	<p>気になる子たちが行くところとか、気になる子たちの親御さんが相談できるところが、学校の先生が対応していただいている、その負担がとても大きいと思うのです。そういう子たちを受け入れる施設が、庄内町にあると学校の方でもその分、教室にも落ち着いていけるのではないかなと思います。親御さんも療育センターに行きなさいと言われるとちょっと負担になり、ちょっと壁が高いと思うのですが、庄内町でちょっと相談にのるよ、こういうことをすると少し子どもたちが学校に通いやすくなるよというような、そういうふうな支援施設があるといいのかなと思います。</p>
町長	<p>子育て支援のところで、両方といいますか、そこまで広げてというようなことができるかどうか。</p>
総務課長	<p>子育て応援課では、今は、児童発達支援ということで幼稚園まではみえています。その部分を今構築しているわけですが、小学校まではまだされていません。小学校になるとまた違うレベルになるのかなと思います。</p>
齊藤委員	<p>先日、LITALICO（りたりこ）という会社があって、ネットでいろいろ障害者の就労の支援だとか、そういうのを応援しているところがあって、一回参加してみたのですが、個別相談も無料で一回していただけたというふうになっていて、そこは不登校から何から全部対応してくれるとか、都市部では塾のよみみたいなのも、療育みたいな塾もしていて、そういうところもあるので、例えば、多動だけでなく不登校だとかそういうことも一気に心配なことがあるときに相談できる、力になってくれるという支援員さんがいるところが一つあると庄内町の保護者の方がとても心強いだろうなと思います。どうしても他所に頼らざるを得ない状況になっているので、難しいのはわかるのですが、庄内町に是非、頼れる施設、どこかの学校の教室の一つでもいいので頼れるところがあればいいなと思います。</p>
飯淵委員	<p>ネットで見ると、LITALICO（りたりこ）の教育ソフトというのがあるんですね。宮城県では全市導入と書いてありますね。</p>
齊藤委員	<p>もし、民間の力も借りられるようであれば、先生方の負担がちょっと減っていくのかなと思いました。</p>
教育長	<p>ホットルームという町内の小中学校の子どもたち、現実的には余目中学校の生徒たちが大部分で、他の小学校から保護者が相談来たりとかあるのですが、やはり、学校の負担ということもありましたけども、全部、不登校も気になる子も、保護者が相談に来たりとか、夜にも相談とか、全部しているので、余目中学校の先生方の勤務時間は長くなっています。町の方から教育相談とかしていただいておりますけども、それも時間が決められていますので、夜は先生方が中心になって対応しております。それが子育てになるのか、町にあれば保護者の意識も大きく変わるとは思いますし、先生方の負担も軽減されるのではないかなと思います。</p>
町長	<p>教育の専門性とか、経験がないとなかなかそういう指導は難しいと思うんですけど、ちょうどいい先生が、あるいは、掛け持ちでもいいので、毎週何曜日と何曜日はこの先生がいるよというような話でもいいと思うんですけど。その辺、可能なかどうか。併せて、どうしても気になる子の親御さんの理解というのがないとなかなか難しいところもあるかなと思いますが。一つのクラスにいろんな子がいると難しいという状況があったり、逆に、どこまでも同じ教室でということも難しいところはあると思いますし。</p>
齊藤委員	<p>特色ある教育ということで、一人ひとりに寄り添った教育ということで、イン</p>

	<p>クルシブ教育ということで、今、言われていますが、ただただ一緒にいるのがインクルシブではないと思うので、適切な支援を受けて、多様性を認め合いながら育てていくというのも教育というのも庄内町はこうしていくんだということで大きいポジションになると思うので、どういうやり方がいいかわからないですけど。</p>
町長	<p>教育委員会の中で、ちょっと検討してみてください。どういう可能性があるのか。今の人数の実態も含めて、あるいは、これからどういう傾向にあるのかということもある程度数字は見えてくると思うので。他に今の部分も含めて、そろそろ残りの時間が迫ってきていますので、言い残したことも含めて関連あれば、よろしくお願いします。</p> <p>図書館の利用状況はどうですか。立川の分館も含めて。</p>
図書館長	<p>立川の分館のデータは本日持ち合わせていないんですけども、本館の方は、平日平均 108 名、土日祝日 148 名ということで、まだ、開館して一ヶ月経っていませんので、一カ月に満たないわけですけども、ちょっとまだ、私たちが目指している目標には至っていないと受け止めています。</p>
町長	<p>目標値としては、どれくらいを設定しているのですか。</p>
図書館長	<p>これだと、今までの現状維持にちかいので、もう少し数字が欲しいなというところですけども、まだ、入れないと思っている人がいるようですので、今後周知活動をこれからテコ入れをしていきたいと思えます。</p>
飯淵委員	<p>うちの子どもたちは楽しかったと言っていました。奥で子どもと大人とピアノのイベントでうけども。</p>
図書館長	<p>おはなし会をやりましたけども、ああいったものを時折やれば、また、集客にもつながると思っています。</p>
町長	<p>他に皆さんから、是非ここでといことがありましたら。</p> <p>その他で、何かありましたら。</p>
教育課長	<p>事務局は特にありません。</p>
町長	<p>よろしいですか。</p>
教育課長	<p>皆さまから貴重なご意見ありがとうございました。只今いただきましたご意見、気になる子や不登校につきましては調査をしてみようと思っております。また、適正規模・適正配置につきましては、まだ、答申をいただいておりますので、答申をいただいてから、只今のご意見を参考に今後の進め方を考えていきたいと思えます。それではこれをもちまして、令和 5 年度第 1 回総合教育会議を終了させていただきます。皆さま、お疲れ様でした。</p>
閉会	<p>(午後 3 時 00 分)</p>

会議の顛末を記載し、相違ないことを証明するため署名する。

令和 5 年 月 日

庄内町長

教育長